

〇〇のみなさん、日本共産党のみわ由美事務所です。<sup>よしみ</sup>

東日本大震災の犠牲者が日を追うごとに増え、福島第1原子力発電所の事故も深刻です。日本共産党は犠牲になった方々に、深く哀悼の意を表するとともに、被災者のみなさんや、避難所であいへんな日々を過ごしている方々にも、心からのお見舞いを申し上げます。

私たち日本共産党も、みわ由美県会議員を松戸市の災害対策本部長とし、救援活動に全力をあげています。遠慮なく声をかけてください。日本共産党は、全国のみなさんからお預かりした救援募金2億3800万円を、第一次分として、岩手、宮城、福島の3県と46市町村に直接届けました。このうち127万7642円は、松戸市民のみなさんからお預かりした義援金です。みなさんの思いが被災地に届きました。これからも救援募金にご協力を、よろしくお願いします。

みなさん、いま、何よりも求められているのは、国をあげての被災者救援と被災地の復興、そして原発からの大量の放射能漏れを押さえることです。日本共産党は、政府があらゆる手を尽くせるよう協力しています。みなさん、大災害に、手を結んで立ち向かいましょう。

大震災の被害が未曾有の規模に広がっている今、私たち日本共産党は、いつせい地方選挙を全国的に延期すべきと主張しましたが、岩手、宮城、福島3県以外は予定通り行われます。私たちは、今度のいつせい地方選挙を、「救援、復興選挙」と位置付け、募金活動など、救援活動に全力をあげながら、福祉・防災のまちづくりを訴えて、堂々とたたかいます。

まず、被災地の復興に国の力を総結集してすすめます。復興のための資金は、ばく大です。行き過ぎた大企業減税や米軍思いやり予算、高速道路無料化、政党助成金などをやめ、5兆円の財源を生み出します。さらに赤字国債とは別に「震災復興国債」を発行し、手持ち資金だけでも64兆円におよぶ大企業に引き受けてもらい、内部留保を、復興・生活再建に役立てるように要請します。

みなさん、今回の原発事故は天災ではありません。日本共産党や専門家が、大きな地震や津波によつて原子炉の冷却機能が失われることになると、繰り返し対策を要求したにも関わらず、国と東京電力は「安全神話」を振りまいて、対策をとりませんでした。国際的な基準にもとづいた、きびしい安全基準をつくり、活断層の上にある静岡県浜岡原発はすぐに停止すべきです。原発を推進する経済産業省の一部門である「原子力安全保安院」ではなく、アメリカの原子力規制委員会のように、原発推進の行政から独立した規制機関をつくり、全国の原発の総点検を実施するべきです。国や自治体のリーダーシップで低エネルギー社会をめざし、原発路線からの脱却をはかりましょう。

大震災のもつとで、いのちと暮らしを守る地方政治の役割が問われています。日本共産党は、水と食の安全を確保し、防災と福祉一体のまちづくりをすすめます。党千葉県議団は県知事に申し入れ、安全な水の確保を約束させました。日本共産党は、千葉県でも松戸市でも、学校などの耐震改修を大至急すすめ、住宅リフォーム制度をつくつて被害住宅の修繕を支援します。高すぎる国保料を、まずは一世帯1万円引き下げ、中学3年生まで医療費無料化、特養ホームと保育所の増設をすすめます。松戸市立病院の耐震建て替えを急ぎ、公立病院としてさらに充実させます。日本共産党県議会議員のみわ由美は、その先頭に立つて頑張ります。

日本共産党は立党の精神を生かし、どんな時でも国民の苦難によりそい、その解決のために、これからも全力をあげて頑張ります。日本共産党へのご支援を、重ねてお願いいたしました。この場所での訴えを終わらせていただきます。ご清聴・ご協力、ありがとございました。